

“Think Globally, Act Locally” Activity

教科: 探究活動・学活・国際理解・道徳・国語・英語・社会

使い方: クラス内 ESDに関する授業の導入の学習活動として

学校教育において、SDGsに限らず持続可能な開発のための教育(ESD)は、どのカリキュラムにも関係してくる大きな要素です。この学習活動を導入に持ってくることで、生徒自身が自身の行動を振り返り、地球市民としての意識や行動とは何か再定義する機会となります。

このレッスンでは実際の展開に入るまでにまず生徒の身体を動かさせ、脳への刺激を入れること。ハワイのとある中学校は必ず毎朝授業を運動から始めます(45分間)また、通常の授業中でも生徒は座ったままで授業を受けることなく、多くの学習活動に身体的な行動が伴われます。このような身体活動を授業に入れ込むことで、受動的になりがちな講義から双方向的な活動へとクラスの雰囲気ガラッと変えることが出来ます。

実施方法(30分)

1. 生徒に自分の行動をそれぞれ振り返って、「地球規模で物事を考え、地域において行動を取れているか」を考える時間を持ちます(この際生徒の学習内容によって、どんな行動が実際にThink Globally, Act Locallyに値するかを具体例で紹介するのも良いかもしれません)その際、生徒に自分の実践をパーセンテージで表すようにように指示します(生徒同士で相談させない)(10分)
2. 起立し、生徒にクラスの中を移動していい許可を出します。生徒に、周りのクラスメイトと会話し、0から100パーセントまで「地球規模で物事を考え、地域において行動を取る」ことに関しての実践度を表す列を作るよう伝えます。実践度が0もしくはクラスメイトの中で一番低い人が一番前になるようになります(10分)
3. 生徒が一行を作ったのを確認し、教員が最終確認をします。その際に「どのような点で自分の実践度を判断したか」数名の生徒に実際質問して生徒の思う、実践具体例を聞き出します(5分)
4. 生徒をグループに分け、各グループで「地球規模で物事を考え、地域において行動を取る」ことの実践具体例をリスト化するように指示します(5分)

(授業のあと)

- ・生徒から挙げた実践具体例リストを集めてクラスの生徒の実践リストとしてまとめます。生徒はリストを見ながら取り組みやすい、そうでないにおいて分けることでそのクラスオリジナルの実践リストが出来上がるでしょう。
- ・集まった実践具体例リストは教室掲示などをするといいいでしょう。